NOW IS.

宮城は現在(いま)も
現実(いま)に
立ち向かう。

Vol. 14
June, 2017
ナウイズ
毎月11日発行

葛岡碧 in 女川

撮影地：地元市場 ハマテラス前

a walk this town !

この街の“今”を探索

地元市場ハマテラス

シーパルピア女川に続く女川町の新しいおもてなし拠点が平成28年12月にオープン。鮮魚や水産加工品などの特産品の販売や飲食店、手作り自然派石鹸の販売、製作体験など「海」をコンセプトにした8店舗が集結。

onagawa fish house AURA（アウラ）

「魚が獲れないなら作ってしまおう」と魚の形の木の商品を販売。当初は地元の方の収入確保と避難生活のストレス軽減が目的でしたが、支援グッズという枠組みにとどまらず、新たに表面をなめらかにした木のおもちゃを開発中。

きぼうのかね商店街

平成24年に被災地最大級の規模の仮設商店街として女川高校のグラウンドにオープンしました。瓦礫の中から1つだけみつかった「希望の鐘」を鳴らしに来てみては。商店街は9月に閉鎖予定で、一部店舗は現在地から東に1キロの町有地へ移設予定。

女川魚市場

平成29年4月に西棟荷さばき場が完成したことで、魚市場全体の復旧工事が完了しました。関係者と行政が一体となって水揚げ量の増加を目指すなど、今後の復興が期待できます。市場の管理棟内には市場食堂もオープンしています。

夏浜・小屋取浜の鳴り砂

女川町の夏浜と小屋取浜は鳴り砂の海岸です。がれきで覆われた浜も、町民有志による「おながわの鳴り砂を守る会」やボランティアの清掃活動により、震災前の環境に戻りつつあります。貴重な鳴り砂を聴きに訪れてみてください。

復興工事の進む女川町市街地（女川町地域医療センターからの眺望）

続けるパワーと生み出す活力。葛岡碧さんと女川の力を感じる旅。

こだわりのフォルムが雇用と夢を生む

雨上がり。海の香りと湿気を含んだ風が髪を揺らします。女川町は土地のかさ上げ工事が進み、少しずつ将来の町の姿が見えてきました。昨年は、まだ頼りなかった女川駅前の街路樹も、しっかりと根をはり、青々と茂っています。

この町を歩いたのは、仙台市出身でファッションモデルの葛岡碧さん。震災直後から取り組みを始め、今は名物のひとつになった木材加工品「onagawa fish」の工房を訪れました。はじめて「onagawa fish」を手に取った葛岡さんは「まるで木じゃないみたい！」とほれぼれ。木片を削って形を作る作業を見ると「ただの木が！すごい！」と歓声を上げました。

代表の湯浅輝樹さんは、やすりで仕上げる工程を解説しながら「視察に来た木工職人に『ここまでしなくても』と言われたこともあるんです」と誇らしげ。震災の年から作り始めた「onagawa fish」は地元の方を雇用し続け、最高で月3000本を売り上げたこともあるそう。おもちゃやコラボ商品もどんどん生まれています。「いいものを作ろうという気持ちがあったから、6年もの間、人気であり続けるんですね」と葛岡さん。

もっと町を見てみたいというリクエストに、湯浅さんは「女川町地域医療センター」に案内してくれました。

onagawa fish
木製キーホルダーで、防犯や災害時のアイテムとしても使えるホイッスル付きなどの商品も。

onagawa fish の工房で
onagawa fishの仕上げを担当する地元のお母さん。つるつるに仕上げる技に感嘆の声が。

onagawa fish house AURA（アウラ）
キーホルダーのほか、木のぬくもりを活かしたおもちゃも開発が進んでいます。

三陸石鹸工房KURIYA
ハマテラスの一角に店を構える。アロマとして使えるかわいらしい石鹸がたくさん。

大切なのは手の届くところから

高さ10数メートルもの津波は、高台にあるこの病院の1階部分まで及びました。「震災当時は東京にいたので…。テレビで見ていた風景がここだったんだと思うと…」。葛岡さんは言葉を詰まらせます。「宮城県がひどい状況でショックでしたが、雑誌の撮影はいつも通りあるんです。帰省もままならない中、どう支援したらいいんだろう、と悩みました」。

葛岡さんの結論は、「自分の手が届く範囲で」ということ。被災地の友人に物資を託したり、つながりのある人に寄付をしたり。「何がベストなのかは、今でも分かりません。でも、できるところから始めることは、時間がたった今でも、変わらないと思います」。

旅の締めくくりは、昨年オープンした観光物産施設「ハマテラス」。威勢のいい声を上げる鮮魚店をのぞき込み「すごいパワー！」と笑顔を見せます。「湯浅さんの話を聞いても驚いたのですが、被災したところから、ここまでやり遂げる力が本当にすごい。私もモデルとしてつくり上げる仕事をしているので、形にするまでがどんなに大変か少しは分かります。このパワーは、ここに来なければ感じられなかった。私も、こんな人間になりたいな、と思いました」。

沼田佐和子

PROFILE

葛岡 碧
くずおか　みどり

仙台市出身。女性誌「Ray」、「AneCan」の専属モデルとして表紙を飾るなど、若い女性に支持を得る人気モデル。現在は、雑誌「CLASSY」「Domani」等に出演する他、CMやテレビにも活動の幅を広げている。震災後はチャリティのファッションショーなどに参加し、義援金を募った。

私も女川の人みたいになりたいな。

旬の魚介が並ぶ「ハマテラス」の鮮魚店で

Support Power

the 応援職員

NOW IS. 女川 ONAGAWA

PROFILE

女川町役場　総務課秘書広報係

坂本 卓也（さかもと たくや）さん

平成29年4月から
兵庫県より女川町に派遣

女川の情報をもっと知って欲しい。

坂本さんが制作する
「広報おながわ」

取材・撮影から編集、配達までを行います

平成25年11月、坂本さんは復興庁の復興支援専門員として女川町に着任。女川町の任期付職員を経て、今年度から兵庫県の任期付職員として女川町に派遣されています。

大阪府出身の坂本さんは、釣り専門誌の編集部を退社後、青年海外協力隊に応募。派遣先の北アフリカ・モロッコでは、長年続ける卓球の経験からクラブチームを指導したほか、コーチとして世界選手権にも参加しました。震災の発生を現地で知り、帰国後、被災地の復興支援に携わることを決意。記者・編集経験が買われ、広報担当を募集していた女川町に派遣されました。

仕事は町民向け広報誌の制作、イベントの撮影、町公式ホームページの更新・管理、報道等の対応と多岐にわたります。「大変だとは感じていません。JR石巻線全線運転再開に向けた試運転で約4年ぶりに響いた警笛や、女川駅再開時の発車の掛け声は身震いするほど感動しました。復興していく町の姿を最前線で感じられるのは広報の醍醐味。注目される町だけに報道対応に追われることもありますが、頑張った分だけ女川の情報が世の中に出ていく。とても良い仕事をやらせてもらっています」と笑顔で話します。

これまでの経験もしっかりと活かされています。「広報の業務で大切なのはコミュニケーション。言葉が違う異国で培った能力は、取材現場や役場内でも活きています。この人に聞けば、女川のことが分かるという安心感をもってもらいたいですね」。

女川町では、今年度中に自立再建宅地と災害公営住宅の95％超を供給予定。女川駅周辺では賑わいを見せる商業エリアのほか、役場新庁舎の建設も始まりました。町の整備が進む中、坂本さんはもう少し女川に残りたいと話します。「女川復興の軌跡や頑張る町の人をもっと撮りたい。支援いただいた全国のみなさんに届くよう、女川の情報をどんどん発信したいですね」。広報マンの情熱は尽きません。

info/area

{エリア情報} 復興や防災にまつわるニュースをお伝えします

音楽の力で女川を元気に 我歴stock in 女川2017～奏開編～

今年で7年目を迎える音楽イベント。震災後、音楽の力で女川町を元気にしたいとの想いで企画。今回は「音を奏でて、女川の可能性を拡げる」との想いを込めて、みなが集い爽快な気持ちになれるよう「奏開」をテーマに開催します。

● 日時:6月18日(日)午前10時～　● 場所:女川駅前広場特設ステージ
問 女川福幸丸(我歴stock in 女川実行委員会)
☎ 070-5322-2500

伝統の獅子振りで地域を一つに 復活!獅子振り披露会

郷土芸能である獅子舞を、女川町では「獅子振り」と呼びます。震災によって道具が流されましたが、全国からの支援で復活。感謝と早期復興の祈願、追悼の想いで披露会を開催します。

● 日時:7月23日(日)午前10時30分～　● 場所:女川駅前広場
問 女川町教育委員会 生涯学習課
☎ 0225-53-2295

今月のガイド

株式会社onagawa factory
代表取締役

湯浅（ゆあさ） 輝樹（てるき）さん

問 0225-24-8612

木材加工品「Onagawa fish」を販売しています。震災前は仙台市でマルシェなどの運営をしていましたが、女川が大変なことになっていると、すぐに現地に。「女川は漁業のまち。災害が起きても継続でき、年齢に関係なく働ける場を作りたい」と考え、震災翌月の4月から「Onagawa fish」のプロジェクトを始めました。立ち上げ当初は自己資金でスタート。木工加工の経験がない地元の方も雇用し、繊細であたたかな商品を作っています。「銀座のおもちゃ店などでも扱ってくれるようになりました。『被災地だから買ってもらう』から脱却し、女川の方の働く場を作り続けたいと思っています」。

記者の視点

筆者プロフィール

河北新報社石巻総局

関根（せきね） 梢（こずえ）さん

1990年生まれ、仙台市出身、
2016年入社、石巻総局

公民連携で「あたらしいスタート」を生み出す

結婚式を挙げた野村浩さん・彩子さん

JR女川駅前の町中心部プロムナードで5月下旬、初めて結婚式が行われた。新郎新婦はともに県外出身。仕事の都合で数年前に町内に移り住み出会ったという。「女川の魅力を親族や友人に知ってほしい」。そんな2人の思いを形にしようと町民らが奔走し、式の実現にこぎ着けた。

「海の見える女川を結婚式のできる町にしたい」というアイデアは平成27年、町民らによるワークショップ「フューチャーセッション」から生まれた。挙式に向け本格的にプロジェクトが始動したのは昨年秋。町内の事業者やNPO、町職員などが一体となって準備に当たった。

東日本大震災で甚大な被害を受けた女川町は「あたらしいスタートが世界一生まれる町へ。」をスローガンに、公民連携で復興まちづくりに取り組む。行政と議会、産業界、住民の連携を「四輪駆動」と表現する人もいる。なるほど、とうなずける。誰かが言い出したアイデアを多様な人材が寄ってたかって形にしていく、組織の垣根を越えた連携が復興への上り坂を駆け上がる推進力だ。

結婚式が終わると、準備に協力した町民らが誰からともなく新郎新婦に駆け寄り、手でアーチを作って2人を祝福した。その輪に次々と人が集まり、アーチはどんどん長くなる。そんな「女川らしい」光景に、胸が熱くなった。

女川を舞台に生まれた1組の夫婦の門出は、町にもまた一つ、新たなスタートを生み出したようだ。

NOW IS.

防災

宮城県各地で行われている防災・減災の取り組みから、日々の備えに生かせるヒントを探していきます。

災害時に役立つアイディアレシピ!

災害時に大切なのは、体力・気力回復の為のおいしくて簡単な食事。日頃から身近な食材を使って短時間で作れる“サバ・メシ”を考えていれば、もしもの時にも慌てずに済みます。今回は災害時に役立つ“サバ・メシ”レシピをご紹介します!

温かくて腹持ちのいい時短メニュー!

和風米ピザ

[材料]
- 塩むすび(ごはんでも可)…1個
- とろろ昆布…適量
- かつお節…適量
- だし醤油…少々
- とろけるチーズ…適量 ・油…少々

[作り方]
1. フライパン(弱火)に油を入れ、塩むすびをフライパンの上で平らにつぶす。
2. 少し焦げ目がついたらひっくり返し、とろろ昆布、とろけるチーズをのせ、だし醤油をかける。
3. チーズがとけたら火を止め、仕上げにかつお節をトッピングする。

“サバ・メシ”のヒント

おにぎりなど、
配給される食材を活用しよう!

混ぜる食材でアレンジもできる!

フライパンで簡単クッキー

[材料]
- 小麦粉…大さじ6
- 砂糖…大さじ2
- マーガリン(バターでも可)…大さじ3
- ごま…適量

[作り方]
1. ポリ袋に小麦粉、砂糖、ごまを入れ、よく振って混ぜる。
2. 1にマーガリンを加えて混ぜる。
3. 生地がまとまったら、袋の端を切り、アルミホイルの上に絞り出す。
4. 3をアルミホイルごとフライパンに置き、弱火～中火で両面を焼く。焼き色がついたら完成。

“サバ・メシ”のヒント

ポリ袋を活用すれば
手も汚れず洗い物も減る!

もしもの時に役立つ“サバ・メシ”

“サバ・メシ”とは、サバイバル・メシ(非常食)のこと。Date fmでは、備蓄食材や缶詰など普段から家にある食材を活用して、「45分以内にカセットコンロ1台でつくれるもの」を条件に、「サバ・メシ＊コンテスト」を開催してきました。

【取材協力】
エフエム仙台防災・減災プロデューサー
板橋（いたばし） 恵子（けいこ）さん
ラジオパーソナリティ。エフエム仙台の防災啓発番組「SUNDAY MORNING WAVE」等に出演中。

〈お知らせ〉

「サバ・メシ防災ハンドブック2017」を無料配布中。“アクティブ”をキーワードに、積極的・能動的な防災の情報を掲載しています。詳しくはDate fmのホームページまで。

女川に新たな生業を。商売人の発想で人が集まる町をつくる。

（上）「あがいん女川」の商品を販売する店舗「あがいんステーション」には、コーヒーショップとコラボしたオリジナル品なども並ぶ
（最左）水産業体験は室内で実施するものもあり、雨の日も対応できる。新鮮な海産物を味わえるのも魅力
（左）梅丸新聞店の看板は、駅前広場に店を構える「みなとまちセラミカ工房」の作品

震災前の課題を解決する復興に

梅丸新聞店は震災前、女川町と石巻市の一部、約2500世帯に新聞を配達していました。「新聞販売店はテリトリー制で、新聞を配達できるエリアが決まっています。うちはほとんどが女川町内。震災直後は、誇張でもなんでもなく、売り上げはゼロになりました。3月14日ごろから残った家や避難所を回り始めて、4月1日から個別宅配を再開しましたが、当時の部数は500部。家を回っていると肌で感じるんですよ、女川から人がいなくなったのを」。女川は震災前から、高齢化と若者の流出による人口の減少が進んでいました。津波はそれに拍車をかけます。「これはまずいな、と。もしこのまま復旧しても、前の売り上げすら見込めないと思いました。震災前の課題を解決しないといけない、そのために何をすればいいのか、考えたんです」。

阿部さんは、想いを同じくするメンバーとともに議論を重ね、未来のビジョンをつくり上げていきます。「商工業も水産業も行政も、すべてを失ったという点ではみんな同じだった。利害関係や垣根を越えて一緒にやれたというのが、良かったんだと思います」。

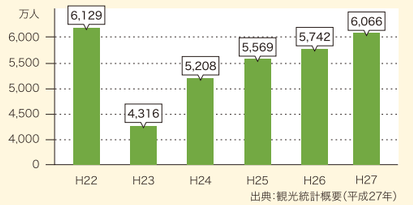
民間は民間の強みを活かし、行政は行政ができることを。同じ方向に向かって歩むなかで浮き彫りになった課題が、女川の「生業」でした。「基幹産業の水産業が立ち行かなくなると、住み続けられなくなる人がでてしまう。そういう事態を避けたいと思ったんです」。

「ガレキだらけの中、何が出来るか話し合い、まずは全国から支援頂いた皆様に女川の商品を応援してもらうために、足がかりとして、もともとあるいい商品をネットで売りたいと。女川をブランド化しようと考えました」。女川の名産を一堂に集めた通販サイト「あがいん女川」では、10社32品目のブランド認定商品を販売。2016年には女川駅前商業エリアに実店舗をオープンしました。

さらに今、力を入れているのが「ブルーツーリズム」です。「視察に来た人が気軽にできて、海が荒れていてもできる体験プログラムを始めています」。水揚げしたばかりのホタテやホヤの殻を剥き、バーベキューや海鮮丼として味わえる水産業体験は、予約すれば5人から受け入れ可能とあって、リピーターも増えています。「小学生が『これ、俺が知ってるホタテじゃない!』と言ったのを聞いたときは、してやったりと思いました」と笑います。「何度も来て、食べて買って、という循環が生まれれば、雇用も生まれます。石巻市や周りの市町とも連携しながら、被災地全体に人が来るのが理想ですね」。

阿部さんが現在新聞を配っているのは、およそ1350世帯。震災前には及ばないものの、今年に入って人が動き始めたのを感じていると言います。「女川で商売をしたい、と入ってくる人もいます。なんだかおもしろいな、といろんな人が集まる町にしていきたいですね」。

県内の進捗状況：観光客入込数（県全体）



出典：観光統計概要（平成27年）

PROFILE

梅丸新聞店 代表取締役
復幸まちづくり女川合同会社 代表社員
阿部（あべ） 喜英（よしひで）さん

小学4年生から新聞配達を始め、家業の新聞販売店を継ぐ。復幸まちづくり女川合同会社のほかにも、商工会や観光協会などにも積極的に関わるほか、女川の情報を集めたフリーペーパーも発行。

NOW IS. vol.14 ナウイズ
発行：平成29年6月11日　宮城県震災復興本部（事務局：震災復興推進課）
〒980-8570　宮城県仙台市青葉区本町3丁目8番1号
Tel：022-211-2443　Fax：022-211-2493
『復興情報発信プロジェクト NOW IS.』は、宮城の復興の「いま」を伝えるプロジェクトです。
宮城県 Miyagi Prefectural Government

INFORMATION from MIYAGI 〔宮城県からのお知らせ〕

01 松島自然の家「野外活動フィールド」がオープンしました

東日本大震災による津波で東松島市宮戸地区への移転再建を進めている松島自然の家「野外活動フィールド」が、本館等の再開に先立ち、6月1日（木）にオープンしました。

現在、学校、企業、家族、グループなどの利用申込を受け付けています。宮戸島の自然や文化に触れたり、スポーツに親しんだり、防災について学ぶこともできますので、ぜひご利用ください。

なお、利用申込方法などの詳細につきましては、松島自然の家ホームページかお電話でご確認ください。

問.松島自然の家
☎.0225-90-4323 受付時間：9:00～17:00（月曜休館）
http://www.pref.miyagi.jp/soshiki/matsushima-cnt/

02 看護学生・未就業看護師等病院就職ガイダンス開催

県内における看護職員不足は深刻な問題で、東日本大震災の影響により、沿岸部をはじめとした県内の多くの病院が、看護師等を確保することが一層困難な状況となっています。県内の病院で働く方々の生の声を聞き、それぞれの病院の魅力に触れるチャンスです。ぜひ足をお運びください。

日時：平成29年6月18日(日)午前11時から午後3時まで
会場：仙台国際センター会議棟2階「桜一体」
対象：県内外の看護系大学、看護師等養成所に在学する学生及び未就業看護師等
参加病院等：県内の68病院及び宮城県ナースセンター
入場料：無料　申込み：不要

問.県医療人材対策室
☎.022-211-2615
http://www.pref.miyagi.jp/soshiki/iryoujinzai/kango011-guidance.html

MEDIA INFORMATION

みやぎ復興情報ポータルサイトはコチラから！
http://www.fukkomiyagi.jp

宮城の復興情報を発信する、「みやぎ復興情報ポータルサイト」を公開しています。復興に関するお知らせや復興の進捗状況、復興に向けた取り組みなどをブログで発信します。

最新情報をブログで！

今月のブログピックアップ

NOW IS. 復興インタビュー

このブログでは、被災地で復興に向けてさまざまな取り組みを行う団体などをご紹介します。

NOW IS.取材チーム

今なお復興への道筋を歩む被災地の「現在（いま）」と「現実（いま）」を伝えたいと、日々被災地をめぐっています。

@名取市

今回は、名取市の6次産業化モデルファーム「ロクファームアタラタ」を訪れました。ここは農と食を学び、体感し、味わうことができる施設。一般社団法人東北復興プロジェクトの高橋由志郎さんにお話を伺いました。

@南三陸町

前号のNOW IS.で、はるな愛さんをガイドしてくれた、南三陸ホテル観洋の女将、阿部憲子さん。震災当時の様子や復興にかける想いをご紹介します。

詳しくは、「みやぎ復興情報ポータルサイト」内の「NOW IS.復興レポート」をご覧下さい。

※この他にも「いわたかれん復興フォト」「宮城発！元気と食の最新情報」などの記事を掲載しています。

いまを発信！復興みやぎ

SNS「いまを発信！復興みやぎ」では、取材チームが見た被災地のいまを発信しています。皆さまからの投稿もお待ちしています。ハッシュタグ「#fukkomiyagi」をつけて、撮影した画像をお寄せください。

取材こぼれ話 Voice from STAFF

見て楽しい！女川町のホームページ

女川町の公式ホームページを見ると、写真が多いことに気付かされます。この写真を撮影しているのは、今回応援職員でご紹介した坂本卓也さん。基本的に、知りたい情報の掲載ページしか閲覧されにくい町のホームページを、もっと見て楽しく、親しみを持ってもらおうと、写真を多く載せるようにしているそうです。年間約200のイベントに足を運ぶという坂本さん。女川の“いま”が詰まっているホームページをぜひご覧ください。

宮城県の東日本大震災死者数（関連死含む）10,560人 | 行方不明者数 1,231 人　平成29年4月30日現在宮城県危機対策課調べ

Vol. 14
June 2017
ナウイズ
毎月11日発行

宮城は現在(いま)も
現実(いま)に
立ち向かう。

NOW IS.

阿部 喜英

梅丸新聞店／
復幸まちづくり女川合同会社

“町のために”が私のために。

町が変わるとき、そこにはいつもキーとなるプレイヤーがいます。女川町にとって、阿部さんはまさにそんな存在。家業の新聞販売店を営むかたわら、震災の9日後にスタートした「女川町復興連絡協議会」の発足メンバーとして、観光協会や商工会のコアメンバーとして、さらには女川のブランディングを担う「復幸まちづくり女川合同会社」の代表社員として、復興の町を創造し続けています。

「復興のためにとか、町の未来をとか、そんなきれいごとじゃないんです」。まちづくりに参画したきっかけを聞くと、阿部さんはそう言って、はにかむように笑います。「津波で7割の家屋がなくなり、1割の方が亡くなった。そんな女川で自分が食べていくためにどうしたらいいか考えたら、やっぱりここを、いい町にするしかなかったんですよ」。